

2. 「地域を支えるおしごと」作成の注意

菊地暁 folklore.lecture@gmail.com

* 本課題は「おじいさん or おばあさんの生活史」をクリアした方のものです。

* 成績評価

- ・ 本講義の評価は、期末レポート（60点満点）およびミニアンケート（4点満点×10回＝40点満点）によりおこなう。
- ・ レポート課題「はたらくおじさん or はたらくおばさん」（字数2000字以上）
本講義で学んだ民俗学の考え方にに基づき、任意の人物より聞き取りをおこない、その仕事を中心とした生活史を作成する。

・ 以下の内容を含む（順序は任意）

- a. その仕事の概要
- b. その仕事に就いた経緯と準備状況（学歴、訓練歴等）
- c. その仕事の大変なところ、やりがいを感じるどころ
- d. 仕事をする上で大切なこと

・ 締切 2025年1月8日（水）までにメールで提出すること（受信確認のため空メールを返送する）

タイトル「2024京大／学部頭文字／回生／氏名／はたらくおじさん or はたらくおばさん」とする。

例：2024京大文1百木田二実 はたらくおじさん

添付ファイル提出可（期末レポートのみ）

* よくある問題／評価の目安

- ・ 文字資料を主たる資料として作成された生活史 → 聞き取りを実施すること
- ・ 生家や本人の家族構成、居住地、学歴、職業等の基本情報の欠如 → 基本的な事実確認の的確さ
- ・ 文体の冗長さ → 文章表現・構成の簡潔さ cf. 「ござね法」by 梅棹忠夫 1969『知的生産の技術』岩波新書
- ・ 一般的な事実関係の煩瑣な説明 → 話者の体験の重点を置くこと、背景説明は簡潔に
- ・ 「感動した」等の記者側側の感情表現 → 記者側側の感情表現は抑制して、感動に価した事実のほうを丁寧に描くことが肝要

* 聞き取りのヒント

- ・ 地図を活用する：cf. 国土地理院「地理院地図（<https://maps.gsi.go.jp/>）」（1940年代以降の航空写真）
- ・ 写真アルバム等を活用する：記憶は具体的事物によって喚起される。レポートには「関連する」写真を添付したほうがベター。
- ・ AV機器を活用する：自分の記憶を過信しないため、録音・録画は効果的

* 注意事項：調査は「話者」にとりしばしば「迷惑」である。 cf. 宮本常一・安溪遊地 2008『調査されるという迷惑』みずのわ出版

* 実践例 菊地暁 2000「うどんとモダン—豊中市岡町における都市民俗誌のこころみ—」『人文学報』83（KURENAIにて利用可）

菊地暁編『ライフストーリーレポート選』京都大学民俗学研究会（2012～+）

菊地暁編 2024『書いてみた生活史：学生とつくる民俗学』実生社